

慶應義塾大学商学部小野晃典研究会第6期

第1回データ解析開題

## 新たな慶應義塾大学附属高校の建設候補地規定要因

廣田渉 許誌允 縄田浩二 大内みさと

### 1. 問題意識

少子化の進む現在、早くから有力な人材を確保するために、私立校は大学附属校の建設により一層力を入れている。現在、慶應義塾大学の附属高校は、男子校が日吉と志木、女子校が三田、共学校が湘南藤沢とニューヨークに設置されている。そしていま、東急電鉄田園都市線沿線のあざみ野において、新たな附属小・中学校の建設に着手している。

慶應義塾の附属高校は東京近郊に設置されていることが多いが、他の大学を例に見ると、立命館大学は北海道、日本大学は長崎県や福島県、女子大としては聖心女子大学が兵庫県や静岡県、白百合女子大学が北海道や岩手県あるいは熊本県にそれぞれ附属校を有している。以上の例から、大学の附属校は必ずしも大学の所在地に近い地域や都心近郊に建設されるわけではないことが見て取れる。

そこで今回のデータ解析では、都道府県別データなどを駆使して、我が慶應義塾大学が新たに附属高校を建設する際に建設地として最有力候補となるのはどの都道府県であるかを予想していただきたい。

また、発表にあたっては各班レジュメとパワポを作成し、行うこととする。仮説の提唱では、どのような問題意識からそのような仮説を立てたのかを念頭において行うように、心がけていただきたい。

各班の発表時間は、発表7分、質疑応答5分の計12分とする。

なお、本年度初めてのデータ解析にあたって、今回のケースではSASによるデータ解析を用いることを各班共通の課題とする。

### 2. チーム分け

